

鉄道・電気・通信手段などの社会資本の充実と西側の高度技術による製品の付加価値化の必要性である。その実現のため、モンゴル人の言葉を借りれば「モンゴルに最も近い西側先進国であり、我々と同じ蒙古斑をもつ人々が住む」日本に対する期待は非常に大きい。

しかし、広い国土に遊牧民が散在するこの国では、鉄道にせよ通信設備にせよ非常に効率が悪い。この国が転換しようとしている資本主義の言葉でいえば、投資効果が低すぎるのである。かといって遊牧民の定住化や集中化は、モンゴルの伝統とアイデンティティの喪失につながる。鉱物資源の面では、製錬所の建設による鉱石の高付加価値化の希望が強いが、これにも原料の長期安定供給、製品の販路確保、基盤技術の育成など多くの問題がある。

これらの点に付いて同室のK氏と何度か話し合ったが、もちろん私たちに根本的な解決策が出せるわけがない。かつての日本で鉱山に付随して発電所ができ鉄道が引かれ製錬所が建設されたように、優秀な鉱床を数多く発見しそれを鉱山に育成することがまず大事なのではないか、というのが私たちのささやかな結論であった。もう一つの私たちの一致した結論は、この国の美しい自然を壊さないために日本は最大限の援助をすべきであるということである。それは、自然を壊すことにより経済大国にのし上がった日本の償いであり、義務でもあるのだ

から。

調査団一同、2週間の滞在中にすっかりモンゴル虜囚になってしまった。それは、この国の自然と人々の親切さのためでもあったが、何よりも、私たちが会ったすべての人達に新しい国造りに懸ける真摯な姿勢を見たからである。私たちのこのような気持ちは、出国の際に鉱石のサンプルを没収されても（後で戻ってきたが）、北京行きの飛行機が例によって8時間遅れても変わらなかつた。

また訪問できる日を楽しみに、バイタルタイ(さよなら!)
モンゴル。

文 献

- Perker, H. and Gealey, W. K. (1973): Plate tectonic evolution of the Western Pacific-Indian Ocean region. *Energy*, 10, 249~261.
- Taira, T. and Tashiro, M. (1987): Late Paleozoic and Mesozoic accretion tectonics in Japan and Eastern Asia. in TAIRA, T. and TASHIRO, M. ed., *Historical Biogeography and Plate Tectonic Evolution of Japan and Eastern Asia*: Terra Publ. Co., 1~43.

SATO Takeo (1991): *Journey to Mongolia*.

<受付: 1991年1月21日>

ジャパン ストンフェア '91

会期: 1991年7月11日(木)~14日(日)

会場: 日本コンベンションセンター(幕張メッセ)

入場料: 1,000円

生活様式の高級化、本物指向と共に天然石材の需要が急速にのびております。特に先カンブリア時代に至る豊富な産地を背景にした外材は多様なバリエティを持ち、その輸入量は急速にのびております。この様な時期

に日本で初めてストーンフェアが開かれることは時期を得た企画と言えます。

ストーンフェアは大理石の産地イタリアを中心に、カララ大理石フェア(5月)、ペローナフェア(9月)などが世界的に有名で、他にスペイン、ドイツ、カナダなどで毎年開催されています。これらはいずれも石材生産地であり、今回消費国の日本で初めて開かれることは大変興味深く、国際的にも注目されております。